

センチピードグラス栽植畦畔での斑点米カメムシ類の発生量と本田での斑点米発生率			
[要約] 出穂したセンチピードグラスに斑点米カメムシ類は生息する。しかし、発生量は近隣のイネ科雑草地に比べ低い。また、センチピードグラス栽植畦畔の無防除での本田内の斑点米発生率は0.1%である。			
農業試験場・環境部・病虫害管理担当		[実施期間] 平成15年度～16年度	
[部会] 農産	[分野] 環境保全型技術	[予算区分] 県単	[成果分類] 指導

[背景・ねらい]

センチピードグラスは、畦畔管理の省力化と斑点米カメムシ類の抑制を目的として栽植されるグラウンドカバープランツであり、本県の水田畦畔では約24haが栽植されている。当初出穂しないとされていたが、近年、出穂し斑点米カメムシ類の生息が確認された。そこで、センチピードグラス栽植畦畔での斑点米カメムシ類の発生状況と本田での斑点米発生率を調査する。

[成果の内容・特徴]

斑点米カメムシ類の成虫と幼虫は、畦畔に栽植されたセンチピードグラスが出穂すると捕獲される。しかし、その発生量は、近隣の雑草地（イネ科のヒエ類とエノコログサが優占）に比べて著しく少ない。また、本田内でも比較的低密度である（図1）。

センチピードグラス栽植畦畔で捕獲される斑点米カメムシ類は、ホソハリカメムシ、アカスジカスミカメ、シラホシカメムシ、クロアシホソナガカメムシの4種であり、ホソハリカメムシが優占する。雑草地で多く捕獲されるクモヘリカメムシは、センチピードグラス栽植畦畔では捕獲されない（図2）。

センチピードグラス栽植畦畔の本田において発生する斑点米は、大型斑点米カメムシ類が産出する標準型斑点米であり、また、斑点米発生率（精玄米）は、無防除で0.10%（2003年）、1回の共同防除で0.05%（2004年）である（表1）。

[成果の活用面・留意点]

センチピードグラスが出穂すると、斑点米カメムシ類が飛来するので、出穂しないように適正に管理する。

センチピードグラスの出穂数は8月中旬頃から増加する傾向がある。

センチピードグラスの栽植のみでは、十分に斑点米カメムシ類を抑制できず、品質基準を超える可能性があるため、発生が多い場合は薬剤防除を行う。

[ 具体的データ ]

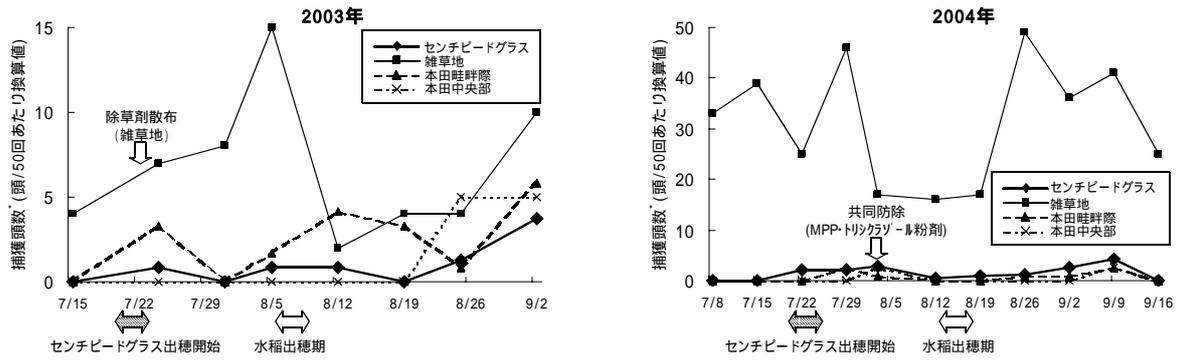


図1 斑点米カメムシ類捕獲頭数の推移

\*捕獲頭数は成虫と幼虫の合計虫数

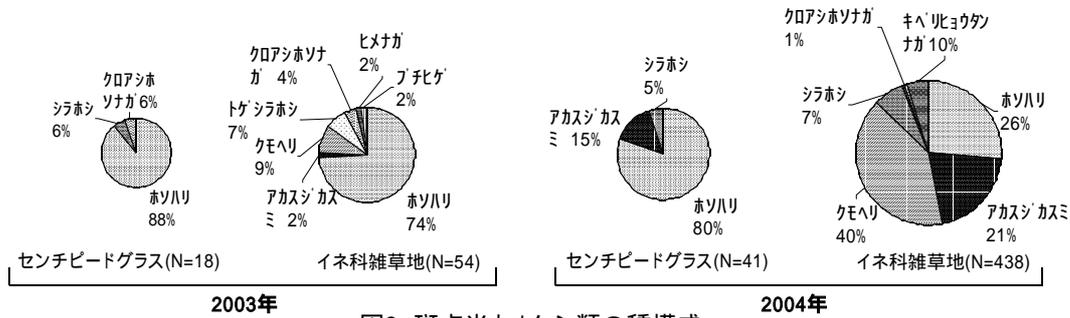


図2 斑点米カメムシ類の種構成

( 各種名のカメムシ及びカメを省略 )

表1 センチピードグラスを畦畔に栽植した本田における各種斑点米発生率

調査年	調査粒数	斑点米発生率(%)			合計
		標準型	尻黒型	黒蝕型	
2003 <sup>*1</sup>	109848	0.10	0.004	0	0.10
2004 <sup>*2</sup>	65240	0.05	0	0	0.05

栽培品種：\*1キヌヒカリ、\*2日本晴

調査方法：980㎡のほ場を5mメッシュ(2003)、7m\*5mメッシュ(2004)状に区切った交点をサンプリングポイントとし、20穂を任意に穂切りした。乾燥、脱粒、初溜り後1、8mm篩で精玄米と屑米に区分し、精玄米を調査した。

[ その他 ]

・研究課題名

大課題名：生物機能等を利用した環境保全技術

中課題名：生態系を活用した病害虫管理技術の確立

・研究担当者名 保積直史(H16)、湯浅和宏(H15)、富家和典(H15~H16)

・協力分担 北川良治(滋賀農総企画情報室)、井上拓弘(大津滋賀地域改良普及センター)

・その他特記事項

試験研究要請課題：センチピードグラスを用いた畦畔の管理が水田周辺の生態系に及ぼす影響(湖北地域改良普及センター)

公表：平成15年度近畿中国四国地域農業試験研究問題別研究会で発表

